

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401755		
法人名	株式会社 サポートライフ		
事業所名	グループホーム 泰安の郷 海願		
所在地	北海道函館市海岸町9番30号 (電話)0138-62-5577		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171401755-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

疾患等があっても地域住民の一員として毎日の生活を支えております。入居者様の状態報告等は市内在住や遠方に限らずご家族様へこまめにさせて頂き、毎月の広報誌を通じて安心感を持って頂けるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 事業所の基本事項：市街中心部に程近い海岸町に位置し、JR駅やバス路線とも徒歩圏内、近隣にはスーパーやコンビニ等があり、利便性が高い環境下に立地している。
2) 職員の介護姿勢・態度等：職員は介護理念の他、介護目標を設定し、共有している。利用者本位の生活となるよう介護者側の都合で決めつけず、柔軟なケアを目標に自立支援、介護に努めている。
3) 家族等の介護への好感：来訪時やお便り等の報告の丁寧さ、細かさ、利用者の心身の変化に即応した対応に高い満足を得ている。
4) 運営推進会議の開催状況：コロナの状況を見ながら、家族、地域代表、行政等の参加、協力を得て、定例で開催しており、意見、要望を聞き取り、全職員で内容について検討する事で運営に活かしている。
5) 地域組織・機関等との連携：自粛傾向にある現在も、災害時の協力体制や地域行事参加等、連携を維持して、ホーム運営への理解に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念・介護目標を読み上げ、職員全員への意識付けを実践しているが開設当時のものであり見直しが必要である。	介護理念・介護目標を事業所内に掲げ、利用者や家族、地域の人々に事業所の約束事として提示し、職員には介護の基本である旨を示し、実践で活かせるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内会や近隣の小学校と連携しながら活動や交流等していたが、新型コロナウイルス感染に伴いイベント等の実施・参加はできていない。	コロナ禍で困難となっているが、通例であれば地域との交流は日常的に行われ、小学生の体験学習や高校生ボランティアの受け入れや地域、事業所相互の行事参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	案内が来るとグループホーム協会や他施設等主催の研修に参加をし意見交換の場として活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議の場を設け各関係機関より意見や要望があれば速やかに取り組み対応している。	運営推進会議は、家族や地域包括、地域代表の協力を得て定例で行われており、行事や研修、職員の動向等を報告して意見や検証を受け、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者・介護支援専門員が中心となり、サービスの質の向上に努めている。市町村担当者との連携もしっかりと取っている。	行政の窓口とは、運営推進会議や運営指導、制度の運用についても随時指導を受けており、情報交換も含め、信頼性のある関係を築いている。地域包括支援センター主催の出前講座の活用で、内部研修を実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、月間業務報告書を提出し、知識を深めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定めて定例開催している。事案は現状の介護内容の検証や事例検討等で、議事内容については都度、職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や事例検討の機会をもち、虐待の理解、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて研修や勉強会にて制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、理解をされた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア掲示板に苦情相談窓口の表示をしている。ご家族や入居者様の思いを聞くことで運営に反映させるよう努めている。	お便り「海願からの潮騒」を発行し、利用者の生活の様子を家族に伝えている他、利用者からサービスについてアンケート調査を外部評価機関を通じて行っており、本人本位のケアとなるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、管理者へ報告・連絡・相談を行っており、日々のカンファレンス等にて反映している。また、管理者は会議等で代表者へ報告をしている。	日々の申し送り時や定例の会議において提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また、必要に応じて管理者との面談も随時設定し、意見やアイデア、工夫について取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力、個性を発揮できる場を把握し、力を活かせる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の参加を提示し、参加後に報告書を提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修会や行事に参加し、相談・意見交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談を大切にし、本人の思いを十分聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームを理解して頂くようお話をし、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期プランとご家族の要望から今後の目標を見定め、本プランへと反映している。また、必要とするサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として共に協力しあい生活を楽しんでいくような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、家族にしかできない支援もあることを理解して頂くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様旧知のご友人や様々な親類からのハガキや手紙が届き、電話も来ることもある。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や利用者の人間関係を把握し、円満な関係を築けるようさりげなく働きかけ、橋渡しをするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況の確認をしたり、転院後も様々な相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活リズムや希望を把握した支援を行っている。意思表示が困難な場合は本人の立場になって検討し支援を行っている。	毎日の生活に寄り添い、支援してきた中から、具体的な思いや願いを聞き取り把握し、カンファレンスを重ねながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中からその方の生活歴を探り、職員間で共有しサービスに反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握した上で介護記録、申し送り等で職員間での情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンス、モニタリング、サービス担当者会議を実施し、それぞれの意見を反映し、個々の課題に沿った介護計画を作成している。	管理者、介護支援専門員を中心にカンファレンスの場でモニタリングを評価し、介護計画を作成している。病気やケガ等によって変更が必要な場合は、即時対応して現状にあったプランとなるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護記録へ記入し、毎朝のカンファレンスでも気づきやアイデアを出し合い、ノートに記入し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアル通りの動きに捉われず、その場の状況に応じた対応、サービスを臨機応変に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練等、地域資源の協力を得ながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの関係が切れないようにご家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医は本人や家族の意向を尊重しているが、状況に応じて協力医の往診や訪問看護も検討し、24時間オンコール体制で安心感のある医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が来て、健康状態の確認等を行い、入居者様の異変等あれば24時間体制で連絡を取れる状況を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書や介護添書により情報提供に努め連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からご家族へ入居者様の状況を説明しており、重度化した場合も同様に今後の対応を話し合い、方針決定時には医療連携も含め、チームケアにあたっている。	契約時に書面で看取りの指針を説明し、希望があれば最後まで支援する旨同意を得ている。重度化・看取りの指針は、利用者にとって適切な対応になるよう、チームとして支援に取り組む事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作り、備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の指導のもと、年2回の防災訓練を行い、月に一度防火管理チェックも独自に行っている。また、非常食も備蓄し体制を築いている。	年に2回の避難訓練、毎月防火管理チェックを実施している。災害時には当事業所が避難場所となる可能性もあり、事業所での対応も広範囲に検討している。備品、備蓄不意の災害に備えている。	前回課題としていた家族、関係者への避難場所の定期的な周知について、引き続き期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けや対応時、個々の尊厳に配慮し、スタッフ間でもカンファレンス等で再認識できる場を設けている。	介護の基本は接遇であり、礼儀を大切にしながら個々の尊厳に配慮した介護に取り組んでいる。親しさと馴れ馴れしさを区分しており、その人を敬う心で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉で多くの答えが返ってくるよう、意識的に声掛けの工夫をしながら希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の状態、状況に配慮しながら出来る限りその方らしい一日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族に好みを伺ったり美容室をオーダーしている。希望があれば化粧品や洋服の購入もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の雰囲気大切に、楽しみながら食べて頂けるよう配慮している。食器拭き等個々の出来る力を活かす援助をしている。	献立は利用者の希望を取り入れており、彩りや食べやすさに配慮している。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、力を活かせるよう支援している。行事食の他、テイクアウトで食事を楽しみある場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日排泄版や温度版に記入している。個々の状態に合わせ、栄養補助剤も摂取して頂き支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個々の能力に合わせ声掛けや介助をしている。義歯等不具合が生じた場合は口腔外科にかかる等対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、パターンに合わせての声掛けをおこなっている。個々に合わせた声掛けや見守り等しながら自立に向けた支援をしている。	排泄はトイレで行うことを基本として、一人ひとりの特性に応じた排泄支援を行い、時間で誘導したり、排泄仕草を見落とさずに誘導したりと、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日で無排便がわかるようチェックしている。ラジオ体操等様々な運動を行い水分量も一目でわかるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミング、体調にも留意し入浴支援を行っている。	毎日お湯はりを行い、全員が週に2回以上は入浴出来る様に努めている。拒否者には無理強いせず、時間と担当者に変化をつけながら、入浴を支援している。また同性介助を原則とし、ゆっくり入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせたナイトケアを行い安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が処方を確認できるよう介護記録の最終ページに添付しており、状況に応じて主治医・医療連携看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした役割、時代背景を写した歌や会話を多くしたり、様々なゲームを提供し気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は暖かい日には周辺の散歩やベランダでの外気浴等で季節を感じて頂けるよう配慮していたがコロナ禍もあり外出は病院受診以外は中止している。	コロナ禍で外出は難しい現状だが、通例では季節のドライブ、桜や紅葉狩り等の他に、天候と相談して出かけるように努め、買い物や外食、散歩等を日常的に行い、閉じこもらない介護となるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をお繋ぎしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に見合った飾りつけをし、季節感を感じて頂き会話にも取り入れている。	リビングは採光が良く、温湿度が適切に保たれた解放的な作りとなっており、四季を感じる飾り付けや写真で溢れている。事業所内は感染防止対策として、換気、除菌消毒を徹底しており、面会制限がある現状においても、事業所としての取り組みを周知し、家族から理解を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その場の状況や個々の想いを尊重した空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、馴染みの家具等を自室へ設置し落ち着けるよう配慮している。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して、導線に留意しながら整理・模様替えを行い、安心して過ごせる部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々環境整備に気配りし、安全に自立した生活を送れるよう配慮している。		